

## ミナミマグロ漁獲枠(TAC)の推移

ミナミマグロ保存委員会(CCSBT)

### 年間総漁獲可能利用量及び国別配分量(有効漁獲上限)(トン)

委員会メンバー 協力的非加盟国	【参考】 2013年	2014年	2015年	2016～ 2017年各年	2018～ 2020年各年	2021年
日本	2,703	3,403 *1	4,847 *2	4,737	6,117 *4	6,197 *5
豪州	4,713	5,193 *1	5,665	5,665	6,165	6,238 *5
韓国	948	1,045 *1	1,140	1,140	1,241	1,257
台湾	948	1,045 *1	1,140	1,140	1,241	1,257
NZ	833	918 *1	1000	1000	1088	1102.5
インドネシア	709	750	750	750	1023 *4	1122.8 *5
南アフリカ	40	40 *1	40 *2	150 *3	450 *4	455.3 *5
EU	10	10	10	10	11	11
フィリピン *a	45	45	45	45	-	-
調査死亡枠 *b	-	-	10	10	6	6
IUU考慮枠 *c	-	-	-	-	306	※
総漁獲可能量(TAC)	10,949	12,449	14,647	14,647	17,647	17,647

(出所:水産庁プレスリリース、CCSBTウェブサイト)

\*a 2017年10月12日協力的非加盟国としての地位が停止

\*b メンバー国が実施する科学調査のための枠。

\*c 非メンバー国によるIUU漁業を考慮。

\*1 南アフリカの配分増加は拡大委員会への加盟が条件であったが、加盟しなかったため当初の割当から変更された。(南アフリカ 150⇒40、日本 4,737⇒4,847)

\*2 南アフリカの配分増加は拡大委員会への加入が条件であったが、加盟しなかったため当初の割当から変更された。(南アフリカ 150-110、日本 3,361+42、豪州 5,151+42、韓国 1,036+9、台湾 1,036+9、NZ 910+8)

\*3 配分の増加は、南アフリカがCCSBTに加盟することが条件。(2016年2月15日拡大委員会に加盟)

\*4 日本の配分量の自主的移譲数値を反映済み。(日本 6,165⇒6,117: インドネシアに各年21トン、南アフリカに各年277トンに移譲)

\*5 日本及び豪州の配分量の自主的移譲数値お並びにインドネシアに対する特別臨時割当(80トン)を反映済み。(日本 6,165⇒6,117: インドネシアに各年21トン、南アフリカに各年277トンに移譲)(豪州 6,245.4⇒6,238.4: インドネシアに77トンに移譲)